

2022（令和4）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会はローマに本部を置く世界宣教を使命としているカトリック女子修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長 Sr マリー・デュ・ムスチェ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951 年（昭和 26 年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観に基づく全人教育の場の実現を目指しています。

(2) 学校法人の沿革

1951（昭和 26）年

学校法人海星女子学院設立認可

海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和 27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和 28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和 29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和 30）年

海星女子学院短期大学英語科設置

海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和 37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和 39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更

福岡海星女子学院中学校・高等学校設置

（福岡）マリア幼稚園を法人統合

海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に名称変更

1965（昭和 40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和 41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和 43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和 55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和 59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成 10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成 12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成 16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成 20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成 24）年

観光ホスピタリティ学科を募集停止。

2014（平成 26）年

英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2022 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	313
神戸海星女子学院高等学校	150	450	410
神戸海星女子学院中学校	150	450	432
神戸海星女子学院小学校	50	300	304
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	282

(5) 教職員の概要

(2022 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教 員	本務	0	18	23	26	21	16	104
	兼務	0	59	7	22	6	15	109
職 員	本務	6	14	3	2	1	3	29
	兼務	1	6	2	3	2	2	16

(6) 役員に関する事項

① 役員名簿

定員数 理事 8名、監事 2名

(2022 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	森田 和子	常 勤	カトリックセンター長
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

【参考】(2023 年 5 月 1 日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	芝山 豊	常 勤	カトリックセンター長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

② 責任限定契約の状況

私立学校法に従い、令和 2 年 4 月 1 日より責任限定契約を締結した。

・対象役員の氏名

非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、西村繁秀）

・契約内容の概要

非業務執行理事及び監事とその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円と、役員報酬の 2 年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

私立学校法に従い、理事会決議により令和 3 年 4 月 1 日から役員賠償責任保険に加入した。

・保険者

東京海上日動火災保険株式会社

・被保険者

記名法人 学校法人海星女子学院

個人被保険者 理事、監事、評議員

・補償内容

役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等

記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

3 億円

（7）評議員の概要

定員数 17 名

（2022 年 5 月 1 日現在）

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カリックセンター長	山田喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
若林 洋子	小中高 事務長	芝山 豊	
石原 敬子	大学長		

【参考】(2023 年 5 月 1 日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
芝山 豊	カトリックセンター長	山田喜美子	
石倉 哲也	小学校教頭	森田 和子	
若林 洋子	小中高 事務長	村田 博	
西岡 弘就	中・高教諭	梶田 行雄	
石原 敬子	大学長		

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

1. 学生募集、広報活動

① 学生募集

2022 年度の入学者数は、英語観光学科 16 (前年度 40) 名、心理こども学科 18 (同 41) 名、合計 34 (同 81) 名であった。前年度より大幅な減少となった。

② 広報活動

オープンキャンパス、本学での土曜進学相談会、高校や他会場での進学相談会、教職員による高校訪問、出張授業など、様々な活動で学生確保に努めた。

2. 学納金等

関西の女子大学の初年度納付金一覧を基に学費等改訂について審議を行い、2023 年度入学生より、入学金を 30 万円から 20 万円に引き下げ、授業料年額を 84 万円から 88 万円に、施設設備費を 20 万円から 26 万円に引き上げることとした。

3. 教育活動

① 英語観光学科

英語力強化の目的で、2022 年度以降入学者用のカリキュラムを改訂するとともに、学内 TOEIC を全員受験必須とした。2 年後のスコア上昇を目指す。また観光分野の学びの一環で、地域創生活動や、空港・観光地におけるユニバーサルデザインの取り組みについて学ぶフィールドワークを行ったほか、コロナ禍で 2020 年から実施ができなかった 1 年次対象の帝国ホテル大阪での「ホスピタリティ研修」を、1 年次から 3 年次対象で実施した。

② 心理こども学科

教育現場における指導力の強化のため、「地域子育て支援」の授業と連携した「海星子育てひろば」や「灘こども塾」へのボランティア参加など、灘区と連携した活動に積極的に取り組んだ。さらに学科の学びの充実のために多角的に検討を継続し、2022 年度の成果として、編入学生受入れの認可を受けたこと、学校法人国際学園星槎大学との「通信制課程科目等履修に関する協定」により、2023 年度より幼・小・中・高の教職課程を履修する学生のうち希望者が特別支援教育課程を履修できる制度を整えたことが挙げられる。

③ グローバル人材育成に向けた取組み

コロナ禍において留学受入先の状況が変わったために留学先の変更の検討を余儀なくされており、2022 年度より短期留学先としてマルタ大学を新たに追加した。さらに 2023 年度に向けて留学先を調整中である。2022 年度留学実績は、中期留学 6 名（カナダ、韓国）、長期留学 4 名（カナダ）、短期留学 1 名（マルタ）であった。今後に向けて、留学支援金・奨学金制度の申請資格及び支援額の変更と、それに伴う規程の改訂、心理こども学科学生の留学支援、英語力強化に向けた取組み等について審議を継続している。

4. 就職支援、就職内定状況等

① 1～4 年次の就職支援

1 年次必修科目「キャリアデザイン入門」、2 年次必修の「海星学Ⅰ・Ⅱ」を活用して、低年次から段階的にキャリア支援を行い、希望する将来の実現に必要な基礎力を養った。3 年次生は「3 年次生対象就職サポートプログラム」で実践的なスキルを習得し、4 年次生はキャリアセンター員による個別相談により進路の決定をした。

② 教職課程、教員採用試験対策講座

課外で公立学校教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座を開催し、筆記試験・実技試験・面接試験に向けて集団指導・個別指導を行った。

③ 就職内定状況

2022 年度の卒業者数は、101 名（英語観光学科 68、心理こども学科 33）で、そのうち就職希望者数は 94 名（英語観光学科 65、心理こども学科 29）、就職者数は 92 名（英語観光学科 64、心理こども学科 28）となり、2023 年 5 月 1 日現在の 2022 年度就職率（就職者数/就職希望者数）は、英語観光学科 96.9（前年度 92.0）%、心理こども学科 96.6（同 100）%、大学計 96.8（同 94.9）%であった。

5. 学生支援

① 学生意識調査

全学生対象のアンケート（年 2 回）の結果、コロナ禍により気分の落ち込みを感じている学生が少なくない現状（2 割弱）が浮き彫りとなった。ケアが必要だと判断された学生に対しては、専門員のいる相談室等につなぐ等対応している。

② 下宿生・留学生交流会

下宿生や留学生のよりどころとなり学生たちが孤立することがないように支援を行うことを目的として、春学期及び秋学期に下宿生・留学生交流会を実施した。

③ 新型コロナウイルス感染症対策助成事業（食に対する支援）

長引くコロナ禍により経済的に困窮している学生への食の支援を行う大学を対象に、その費用の一部を助成する標記「食に対する支援」事業（日本学生支援機構主催）に参画した。支援の対象を下宿生・留学生、奨学金受給者とし、学生食堂の食券及びレトルト食品等 1 人当たり 5,000 円分を支給した。

④ 大学保健室

合理的配慮申請者が増えている現状から、2022 年度より大学保健室に新たな要員を配置し、法人の保健センターから離れて独自に保健室運営を行うこととし、秋学期からは常時保健室を開室できる体制を整えた。教育実習前は必要な検査実施のため利用が多いが、それを含め、月平均 40 名の学生が利用している。特に学期始めの相談件数が多い。

⑤ 学生の合理的配慮

2021 年度に発足した「学生サポート委員会」（学生部・教務部・保健室・学生相談室）及び担任が、主に合理的配慮が必要な学生に対してチームで対応する体制を運用し始めた。授業における各学生の配慮希望内容を聞き取り、各教員の配慮可能範囲を確認した後に再度本人及び保護者に理解していただくという手続きが担当者の過大な負担となっていることが明らかとなり、2023 年度に向けて対応可能な専門員を配置することを決定した。

6. 生涯教育、地域交流・貢献等

① 学生による活動

「キッズイングリッシュ」科目の担当教員及び履修生が協定校の神戸市立美野丘小学校で 1・2 年生のクラスの英語の出前授業を行った。また、キッズイングリッシュクラブの学生が神戸市内の公民館での児童英語教室出張授業を行った。

フラ&タヒチアンダンス Pua Nani が「第 12 回灘区総合芸術祭」に参加したほか、バレエ部が児童養護施設とのバレーボールを介した交流、アナウンス研究会が地域コミュニティラジオ FM MOOV に参加するなど、地域との交流や社会貢献を行った。

② 教員による講演・研修会等

神戸市との大学連携講座である「こうべ生涯学習カレッジ」を担当した。また、大学教育の地域還元という位置づけで、公開講座と生涯学習講座 12 講座を開催した。その他、兵庫県（教育委員会）、神戸市（教育委員会）、灘区（まちづくり課）、宝塚市（公民館）、芦屋市（公民館）、西宮市（文化振興財団）、明石市（教育委員会）、丹波市（教育委員会）などから依頼の講演を本学教員が担当した。

7. キリスト教関連行事等

① キリスト教研修

1 年次生は学内でオリエンテーリング、2 年次生はカトリック夙川教会で聖母マリア様についての講演と音楽観賞、3 年次生は布引ハーブ園で神父様及び教員による講演を聴いた。また 4 年次生は講話を基にグループディスカッションを行った。

③ 海星協力金

各学期 1 人 500 円ずつをクラスで集め、年末にさまざまな場所に送金している。2022 年度の送金先は、「日本キリスト教海外医療協力会」、「日本国際ボランティアセンター」、「国境なき医師団」、「ミンダナオ子ども図書館」等である。2023 年 2 月には、1994 年から毎年募金をしている「日本国際ボランティアセンター」の職員が来校され、感謝状をいただいた。

③ サンタガールズの活動

ボランティアグループ（サンタガールズ）が、不要になった教科書やその他書籍を回収し、リサイクル用に学内で販売活動を行った。収益は「サンタ募金」として「海星協力金」の一部と合わせて年末に灘区内の 3 つの児童養護施設の子どもたちに届けた。

④ ミッション・シネマの会

昼休みの時間を利用して、キリスト教の影響を受けた人物について学ぶ「ミッション・シネマの会」を開催した。春学期は『石井のおとうさんありがとう』、秋学期は『筆子・その愛』を上映・観賞した。

8. 大学改革関連

① FD・SDの取組み

年度始め（4 月 2 日）に専任・非常勤教員対象の研修会において、ハラスメント防止研修会及び合理的配慮研修会を実施した。後者においては、本学の「合理的配慮ガイドライン」を配布し、配慮が必要な学生の対応について組織的に取り組む基礎を整えた。また、学期ごとに授業公開、学生による授業評価及び授業改善のためのアンケート調査、全教員による授業結果・授業改善報告等を実施した。職員対象の研修会としては、6 月 30 日にパワハラ防止研修会（職員対象）、8 月 31 日に情報セキュリティー研修会（教職員対象）を行った。

② 教員評価

英語観光学科及び心理こども学科の教員は各学科主任宛に、共通科目の教員は共通科

目主任宛にそれぞれ人事考課表（担当職務の具体的遂行結果及びそれに対する本人評価について記載したもの）を提出した。その後、学科主任及び共通科目主任が所属教員と個別面談を実施し、当該教員に対して下した評価を学長に提出した。学長は各主任との面談の後、学長の評価結果を理事長に提出する。

9. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学研究紀要』第 61 号を 2023 年 2 月に発行した。また、『言語文化研究』第 7 号（神戸海星女子学院大学 言語文化研究所）を 3 月に発行した。

10. 施設工事関係

大学 2 号館を小学校に移管する計画に伴い、本館及び図書館棟の改修工事を実施した。これにより、図書館棟に教室 3 室、研究室 6 室、ラーニングコモンズ 2 室、心理相談実習室 2 室、本館に体育室、クラブ室、パウダールームが新設された。

（２）神戸海星女子学院中学校・高等学校

１．中学校生徒募集と広報活動について

① 中学校生徒募集

2023 年度入試の出願者数は A 日程 140 名、B 日程 114 名、受験者数はそれぞれ 130 名、109 名であった。今年度も新型コロナウイルスの感染対策（救済措置）の一環として、A 日程のみ追試験を用意したが、受験希望者はいなかった。

② 大学入試結果

2023 年度の国公立大学合格者数は 57 名（現役 46 名）で、現役合格者数は 4 名の増加、合格率では 6.5%増（28.6% → 35.1%）であった。なお、東京大を初めとして、京都市大・大阪大・北海道大・名古屋大・一橋大・神戸大で計 22 名（現役 17 名）、医学部医学科に関しては、国公立・現浪合わせて 20 名（延べ人数）であった。

③ 広報活動

新型コロナウイルスの感染拡大のため、教員による塾訪問を前年に引き続き 2022 年度も中止、パンフレットやポスター、リーフレット類はすべて塾に郵送した。一方、初めての試みとして、6 月に塾関係者対象の説明会を本校で実施、3 日間にわたり全部で 14 の塾、計 54 名の参加があった。本校の教育方針、諸活動等に関してスライドと動画を用いて説明した後、授業並びに校舎の見学を行った。最後に塾の卒業生（希望者）との面会の機会を設けたが、極めて好評だった。

校外の相談会、私学連合会主催、業者主催の合同説明会、塾主催の説明会に関しては、多少の規制はあったがほぼ従来通り実施、本校もできるだけ積極的に参加した。校内では学院祭が非公開での開催となったが、受験希望者に対しては、人数制限を設けた上で見学の機会を提供した。在校生による見学ツアー形式で実施し、小規模ながら丁寧な対応ができた。オープンスクールに関しては、在校生との接触を回避し、見学主体の縮小バージョンで開催した。体育祭も事前予約を受け付けて受験希望者に開放した。学校説明会に関しては、概ね従来通りの形態で実施できたが、2 回とも予約制にして出席者数を制限した。また学校見学会を計 5 回実施し、本校の雰囲気を感じ、生徒たちの生の姿を見てもらう機会を増やした。

外部メディアを利用した広報は、例年どおり受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンライン等ネット媒体を活用した広報活動に注力した。また、阪急の駅構内へ新たに看板（宣伝広告）を設置した。

２．学校納付金等について

施設費等が含まれる授業料は、中 1 から高 3 まで 66 万円である。

3. 教育活動について

① 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」とことと、「生徒の希望する進路の実現」を 2 つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中 3 からは高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中 3 の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

② 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施

中 2 のネイティブ教員による英会話の授業を継続実施した。1 クラスを均等 3 分割、生徒 11～12 名に対して 1 人のネイティブ教員という少人数授業であり、外国語学習にとって理想的な環境である。中 3 数学においては習熟度に応じた 3 クラス編成（標準 2 クラス・発展 1 クラス）、中 3 英語は少人数授業の更なる充実を図るべく、均等 3 分割編成を継続した。高 1 と高 2 の英語については、標準・発展の習熟度別 2 クラス編成、高 2 数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に 2 分割し、個人の学力に見合った効果的な授業を実施した。

③ 指名補習

中学生に関しては、定期考査ごとに成績下位者に対して英語と数学の補習を行い、基礎学力の定着を図った。これとは別に、中 2・中 3 の英語と数学に関して、更なる基礎力の向上と全体的な底上げを期して、定期考査の成績が一定の基準に達しなかった生徒（下位約 20 名）を対象に「特別指名補習」を放課後に週 2 回程度実施した。

④ 放課後学習サポートシステム

「スクール TOMAS」と提携して、低～中位層を対象（希望者・有料）に自学自習のサポートシステムを構築、2022 年度 2 学期より利用を開始した。対象学年は中 1～高 2、教科は英語・数学・国語・理科・社会。形態としては「質問型個別指導」を基本に、オプションとして、「カリキュラム型個別指導」・「A I 型個別指導 atama+」・「オンライン英会話（Native Camp）」が用意されている。

⑤ 特別活動、宿泊行事

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕的活動を行い、心身の健全な発達を図った。

中 1 は、6 月に「イングランドの丘」（南あわじ市）への遠足を実施した。10 月には（財）神戸市民福祉振興協会「しあわせの村」での 1 日福祉体験学習を 2 クラスずつ 2 回に分けて

行った。中2は、2泊3日の体験合宿を6月に「休暇村蒜山高原」で実施した。また、灘さくら支援学校との交流を11月にオンライン形式で行った。中3の異文化理解合宿に関しては、「グランドニッコー」(淡路市)にて、協働型体験プログラム「グローバルビレッジ」(LbE Japan 主催)を実施した。SDGsの学習を起点に、様々な文化背景を持つ留学生との交流を通して、国際的視野を培養し、多様な価値観・異文化への理解を深めた。また、コロナ禍でしばらく中断していた中3の企業訪問を再開、11月に5社(竹中工務店・六甲バター・シスメックス・萩原珈琲・日本銀行)を訪問した。その後2月に事後学習として、振り返りのプレゼンテーションを各社の担当者を本校に招待して実施した。

高1では3学期に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。高2では、昨年コロナウイルス感染拡大のため中止した大塚国際美術館見学を5月に実施した。高3では5月に「ユニトピア篠山」にて1泊2日の静修合宿を実施した。また、高2同様、一昨年中止となった大塚国際美術館見学をあらためて10月に実施した。

中1～高2の各学年の静修は従来通り3学期に校内で行った。

⑥ 体育祭

9月にほぼ従来通りの形で実施した。

⑦ 高Ⅱ修学旅行

フランスへの旅行は中止、行き先を国内(長崎・熊本方面)へ変更して、5泊6日で実施した。

⑧ 海外研修・国内英語研修

「オーストラリア交換プログラム」・「イギリス語学研修」は中止した。海外研修に代わるものとして、8月に「エンパワーメントプログラム」(ISA 主催)を中3・高1の希望者対象に4日間本校で実施した。

⑨ ICT教育

Google社の『Google Workspace』を使用した各授業での教材提示及び情報提供は浸透・定着し、Meet機能によるリアルタイムでの授業配信や各式典(始業式・終業式・入学式・卒業式等)の配信など、その使用領域は年々広がっている。生徒に貸与(中1・中2は自費購入)しているChromebookの使用頻度もさらに高まり、自宅のみならず学校においても様々な場面で積極的に活用している。また、教員相互での利用率も一層向上し、朝終礼をはじめ、校務や職員会議等での諸連絡に大いに役立っている。

4. 学校評価について

(自己評価)

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己

評価を行い、その結果を集計した（資料 1）。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

（資料 1） 2022 年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

（1）評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の 3 分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

（2）評価の方法

評価は 5 段階で行い、達成度の最も高い評価を 5、最も低い評価を 1 とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

評価項目	評価
A 教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3. 9
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	4. 0
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	3. 9
④目標とした内容が定着しているか	3. 5
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	3. 9
B 校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	3. 9
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3. 6
C 担任業務	
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	4. 0
②保護者との連携がとれているか	4. 0
③学年内の連携がとれているか	4. 1
④教科担任との連絡がとれているか	3. 9

（３）神戸海星女子学院小学校

1. 小学校広報活動と児童募集について

幼児教室 6 教室には年間 3 回、2 教室には年間 2 回、その他 3 教室には 1 回と、神戸海星マリア幼稚園（年間 2 回）で、2023 年入試に向けての説明会・講演会を行った。また、入試後の 9・10 月には 13 の幼児教室を回り、入試報告を行い、転入学募集についての協力依頼をした。12 月に、第 10 回の「兵庫県私立小学校フェア」が兵庫県の私学 11 校が集まり東急 REI ホテルで行われた。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数 2 クラス制の良さなどの説明を行った。年少、年少未満の方が多かったこともあり、これから受験する方に説明する良い機会になった。2023 年 2 月に「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が行われた。参加者は少なかったが、本校の複数の教員が海星小について話す良い機会となった。

受験希望者に対して、4 月に授業体験会を実施し、学校での説明会を 5 月と 6 月と 10 月の 3 回実施した。第 1 回目の 5 月は、入学希望の保護者を対象に説明会を行い、120 組の方が参加された。第 2 回目の 6 月は、年長の保護者を対象に授業公開と児童による学校説明を行い、好評を得た。10 月の説明会では年中の保護者を対象に、授業公開と入試報告、6 年生による学校紹介を行った。また、1 月末には図工展を 2 部制で公開し、児童の作品を鑑賞してもらった。

2020 年度より小学校機関紙「かいせい」を、写真を多く掲載したカラー版に改定し、効果的な広報ツールとしても活用できている。その他の広報活動としては、10 月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや本校の機関紙「かいせい」を郵送し、本校の学校生活の様子を毎月 1 回は伝えるように努めた。

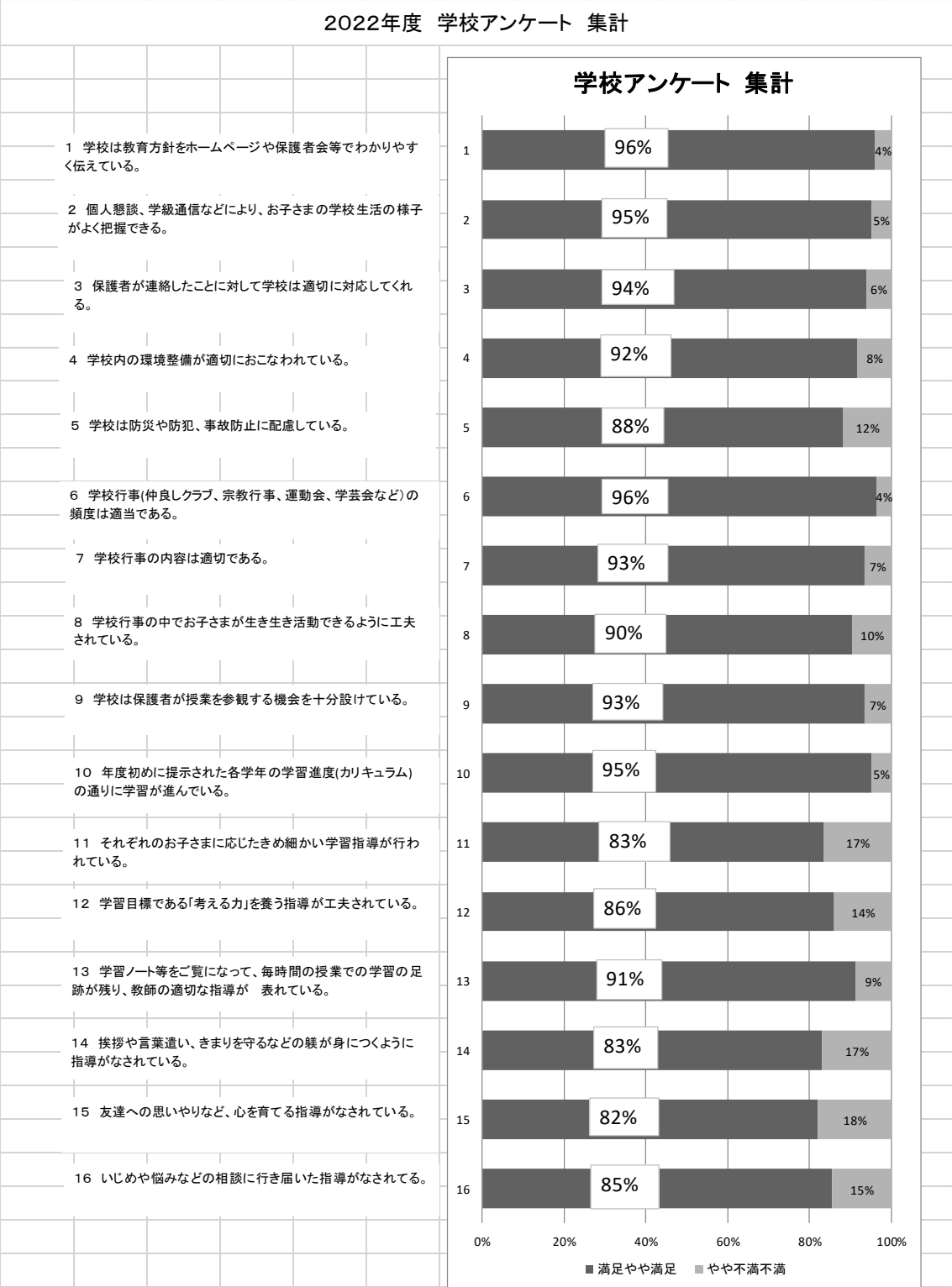
2023 年入試は、50 名の募集に対し 55 名の志願者があり、52 名の合格者を出し、50 名が手続きをした。1 月には転入試験を行い、新 3 年 2 名、新 4 年 2 名を合格とした。2023 年度の児童数は、1 年生 48 名、2 年生 54 名、3 年生 52 名、4 年生 52 名、5 年生 49 名、6 年生 49 名、計 304 名となった。2023 年度も、学則定員 50 名×6 学年＝300 名を確保できた。

2. 学校評価について

毎年 2 月に、保護者に対して無記名で学校評価に対するアンケートを実施している。240 名の保護者から回答をいただいた。（回収率 84%）（資料 1） 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、これまでの経験を活かしながら制約はあったが全ての行事を行うことができたことが、多くの項目でポイントを上げる結果になったと思われる。学習指導についても、教科担任制を導入したこともあり、記述欄にも教科指導の不満は減り、「考える力を養う」などの項目で少しずつポイントが上がった。「友だちへの思いやり」や「いじめや悩みなどの相談」について、宗教教育が基礎にある本校にとって最も大切な部分なので、さら

に教員全体で取り組んでいきたい。

(資料 1) 2022 年度 学校アンケート



次に、教員による自己評価についてである。2023 年度初めに昨年の学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。今年度は、Aの学習指導について自己評価が低くなっており、来年度に向けて学習内容を定着させる指導を進めていきたい。Cの担任業務については、専科教員との連携など自己評価が低くなっているため、来年度は改善していきたい。

(資料 2) 2022 年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A 学習指導・生活指導	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 6
	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3. 5
	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 8
	設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	4. 1
	個々の児童の学習内容が定着しているか。	3. 8
	目標とした学習内容が定着しているか。	3. 5
	同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3. 8
	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	3. 8
	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	4. 1
	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 5
B 校務分掌	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	3. 9
	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3. 5
C 担任業務		

保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、	3. 9
信頼関係を築いているか。	
学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	4. 1
専科教員との連携が取れているか。	3. 8

3. 教育について

① 特色ある教育

(ア) 宗教教育

全校生毎週 1 時間の宗教の時間や、週 1 回（金）の礼拝朝礼、毎日の朝礼・終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」・「創立記念ミサ」・「クリスマス会」・「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(イ) 外国語（英語）教育

2022 年度は、全校生週に 3 時間、うち 2 時間は教員 3 人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(ウ) 福祉教育

毎年 5 年生が訪問している老人ホーム（大池サンホーム）の訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止にした。

(エ) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間 19 時間実施した。

・ 1 年生歓迎会	1 時間
・ 春の遠足	5 時間
・ ドッジボール大会	2 時間
・ 読書まつり	2 時間
・ 秋の遠足（王子動物園）	4 時間
・ 校外清掃	2 時間
・ 百人一首	2 時間
・ 6 年生とのお別れ会	1 時間

② その他の取り組み（保護者会、教員研修、宿泊行事）

（ア）4月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学年保護者会を1年生は大学の教室で、他学年はオンラインで行った。7月には学級保護者会を各教室で行った。授業参観は6月に学年を2つに分けて行った。9月には3日間に分けて、学年を分散して行った。12月には対面で学年保護者会を行い、2月には1～3年生は対面で学級保護者会、4年生は誕生学の授業に続いて学年保護者会、5年生は中高の野手教頭先生から海星中学校・高等学校の生活についての説明を聞き、学年保護者会を行った。

（イ）学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に1回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した。また、新たに部会（宗教・生活・研究）と国算部会の集まりを月1回持った。

（ウ）学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	今年度
2	学校活動	小学校校舎	家族を離れての共同生活 王子動物園、体育館でゲーム	日帰り 2日間
3	校外活動	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	1泊2日
4	校外活動	国立淡路青少年交流の家	砂の造形、藍染め、ストーンペインティング など	1泊2日
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	2泊3日
6	修学旅行	山口、広島方面	秋吉台、秋芳洞、ザビエル記念聖堂 広島平和記念資料館 平和記念公園	2泊3日

（４）神戸海星女子学院マリア幼稚園

１．園児の状況について

① 園児数

2022 年 4 月の園児数は 5 歳児 98 名、4 歳児 94 名、3 歳児 90 名で、計 282 名となった。

（2022 年度末：5 歳児 97 名、4 歳児 94 名、3 歳児 89 名、満 3 歳児 29 名、計 309 名）

② 新入園児

新年少児 63 名入園（82 名応募）、合格者内訳はつくし・弟妹が 26 名、外部から 37 名であった。満 3 歳児は 27 名入園（37 名応募）、内訳は弟妹が 13 名、外部が 14 名であった。

③ つくし組（週 2 日 1 年間通う 2 歳児クラス）

25 名入会。内訳は弟妹卒園生 15 名、外部は 10 名であった。（36 名応募）。

④ 選考方法

新入園児（3 歳児）の選考は親子面接を実施した。

２．幼稚園を取り巻く現状

① 少子化の進行

少子高齢化が叫ばれるようになって久しい。特に幼稚園運営においては少子化の波は乗り越えるべき最も重要な課題である。本園は上記の通り、これまで園児が充足してきたことと、地域、保護者のニーズを鑑み、2022 年度も引き続き、私学助成を受ける従来どおりの「幼稚園」を選択した。西宮市の私立幼稚園 39 園のうち 20 園（私立幼稚園 12 園、認定こども園 8 園）が新制度園の適用を受けている。今後、園児減少を想定した園運営に努めなければならないと考えている。

② 人材確保

円滑で魅力ある園経営をするにはマンパワーが欠かせない。しかし昨今、幼稚園教諭希望者は少なく、人材を確保することは非常に難しい。2022 年度当初においてもかなり切実感があった。特に本園はモンテッソーリ教育を軸としており、その研修を重ねた教員の確保はなおさらである。2022 年度はホームページ等を利用したの公募や保育士・幼稚園教諭・子育て支援員等の人材派遣会社への依頼、さらに以前勤めていた方やその方からの紹介など臨機応変に対応し、保育教諭、子育て支援員等の採用を行い、人材の確保をした。少ない希望者の中から本園での働きを選んでいただくためにあらためて職場環境にもし

っかり目を向け取り組まなければならないと考えている。

③ コロナ禍

コロナ禍 3 年目がどのような 1 年になるか予想もつかない状況であったが、『子どもの園活動については状況を見極めながら前年度よりも前進させていく』ことを年度当初に掲げ 2022 年度をスタートさせた。感染症対策はしつつも、保護者の来園、通常の保育活動、各種行事、園庭開放、父母の会の活動など、状況をその都度見計らい、ほぼ通常どおり実施できたことは有意義であった。特に、保護者の伝統行事である「コーラス活動」は感染対策ガイドラインをしっかりと作成して実施し、園児を巻き込んだ発表会は成功裏に終わった。こうした様々な取り組みを通して、保護者からの信頼をあらためて得られたのではないかと実感している。また、卒園式では、式中のみではあったが、全教職員がマスクを外し子どもたちを送れたことは良かったと感じている。

3. 保育・教育活動

① 保育

子どもたちのマスク生活を 1 学期後半に解除することで、子どもたちの生活に少しゆとりと伸びやかさが出始めた。何より、子どもの表情を見とり、思っていることや考えていることを保育者が察しながら声かけができるようになったことは保育をする上で非常に大きかった。

本園は縦割りクラスであるため、入園まもない年少児も比較的安心感をもって教室で過ごすことができる。これは保護者にとっても安心感につながっている。また登園後のおおよその過ごし方の目安を示すことで、子ども自身が見通しをもって生活ができた。

② モンテッソーリ教育

モンテッソーリ保育をうたっている園であるが、なかなかそれに没頭する時間が少ないのが現状である。そのため、園児の登園完了（9 時 30 分）から、おおよそ 10 時までは教室での教具提供の時間にしている。この時間は教具に没頭するよいきっかけになっていると感じる。その後、自由選択活動においても引き続き教具に取り組む園児も多い。教具の提供のみならず、モンテッソーリ教育の精神性を教職員で共有することが、マリア幼稚園の教育方針につながると考えている。そのため、年度当初の所信の際には教職員でその点を確認した。

③ キリスト教に基づく保育

子ども基金での献金の実施、お誕生日会、お集まりなど日常の保育の中での祈りの時間、スポーツデーやキャンプなど全体で活動する前のお祈りなどを積極的に行った。そうしたことを通して、子どもたちにも神様の存在を意識した生活ができるようになったと感じる。

2022 年度の七五三では夙川教会の神父様に来園いただき、祝福を受けた。

年長児には「神様のお話」の時間を設けている。月に一度ではあるが、各クラス少人数で実施ができた。3月に最後の「神様のお話」の時間を「感謝の集い」として実施し、保護者も一緒にその時間を行い、生まれてきたことへの感謝、お家の人への感謝を感じる時間となった。また幼稚園小聖堂で実施し、神様に見守られたよき時間になった。

④ 各種行事

以下の予定行事を全て実施できた。コロナ禍ということもあり、当初は人数制限や通常の方法を変更しながら実施するなど感染症対策を優先して実施した。

・入園の日	4/6 (水)	・親子遠足	4/20 (水)
・キャンプ A 組	7/8 (金)	・終園日	7/15 (金)
・夏季アフター	7/19 (火) ～7/29 (金)	・始園日	9/ 1 (木)
・入園選考日	9/30 (金)	・スポーツデー	10/ 8 (土)
・園外保育	10/17 (月) ～	・七五三	11/10 (木)
・聖劇	11/29 (火) ～	・お餅つき	12/13 (火)
・クリスマスミサ	12/22 (木)	・始園日	1/10 (火)
・園外保育	2/6 (月) ～	・感謝の集い	2/27 (月) ～
・卒園の日	3/17 (金)		

特に 2021 年度は中止していた親子遠足、園外保育（遠足）、七五三、お餅つきが実施でき、幼稚園生活の大半がコロナ禍であった年長児にとっては最後によい思い出ができた。

4. 施設整備

① トイレ改修

かねてから懸案であった下の園庭のトイレ改修を行った。2 学期からの園庭開放の再開にあわせて改修できたことは、保護者の利用等を考えると大変有効であった。

② 森の整備

2022 年度は特に実施できなかった。夏の日よけや土俵の改修の検討など、優先すべき園庭環境について検討した。土俵についてはその劣化や使用度を鑑み、廃止した。また、園庭の植栽の整備に努めた。

③ 芝生の管理

「県民まちなみ緑化事業」に参画し、2 年が終了した。上の園庭の芝生は 2021 年度以上に緑化され、美化環境的にも、園庭で遊ぶ子どもの安全面においても良いものになった。

④ 園内の I T 化

園内どこでもつながるネットワーク環境を目指しているが、安定した環境にするための工事には費用面でも環境面でもリスクが伴う。その費用対効果を鑑み、工事を伴う I T 化については保留とした。しかし、最低限の Wi-Fi 環境を整えるため、中継機を設置した。

5. その他

① 教員研修

以下の研修を実施し、教員のスキルアップに努めた。

- ・京都モンテッソーリ教師養成コース（2 名ディプロマ取得）
- ・モンテッソーリ教具提示方法研修（園内研修）
- ・読書会（園内研修）
- ・聖劇前研修（園内研修）
- ・「幼児教育における自然教育の重要性」（西宮私立幼稚園連合会）
- ・その他、各自、自主的な研修、園見学に参加

（５）施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
神戸市灘区青谷町	大学本館	6,559 m ²
	大学図書館	4,047 m ²
	中高校舎、講堂	10,627 m ²
	中高食堂ロッカー棟	659 m ²
	体育館	1,675 m ²
	小学校北館	2,149 m ²
	小学校南館	3,316 m ²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m ²

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

2022 年度は特にない。